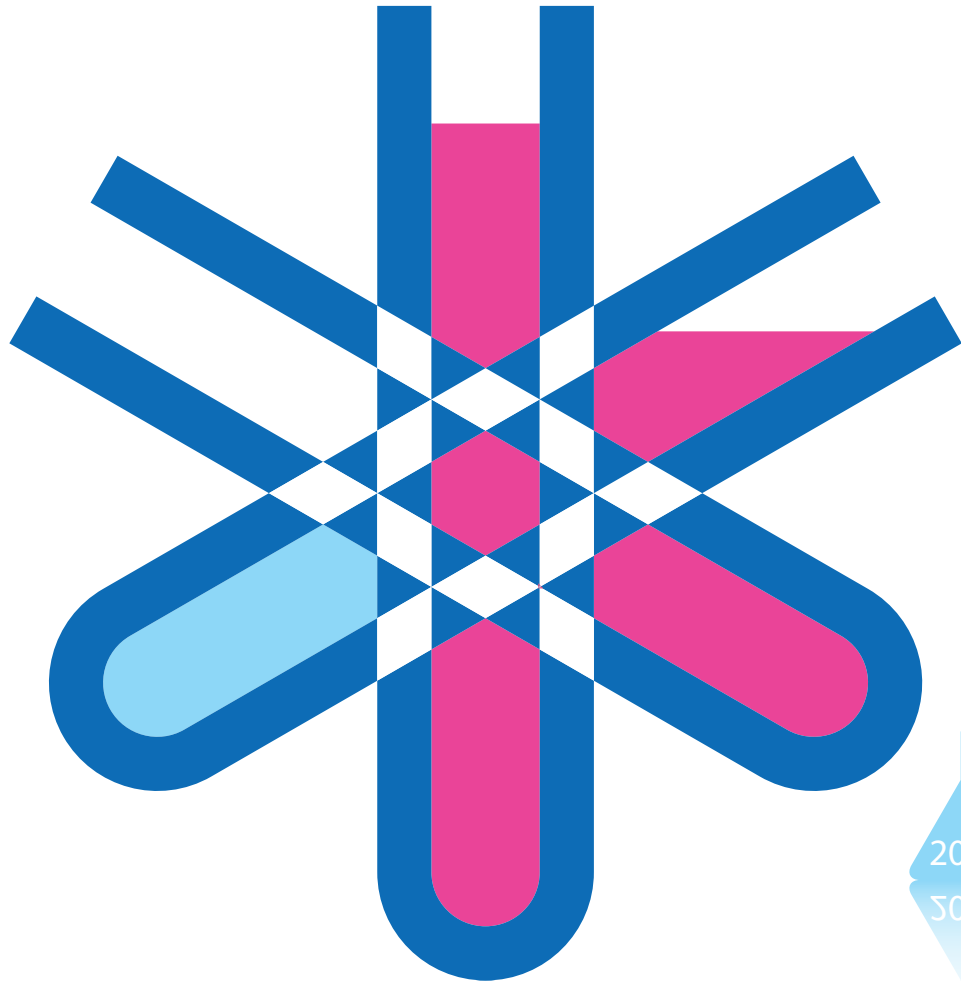


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和2年11月号 目次

【検査結果】

横浜市内のマダニ類生息状況調査結果(令和元年)	1
食品中の動物用医薬品検査結果(令和2年9月)	3

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告(令和2年10月)	5
----------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報(令和2年10月)	9
------------------------------	---

横浜市内のマダニ類生息状況調査結果(令和元年)

当所では、市内の緑地や公園において、マダニ類の生息状況調査を行っています。マダニ類は世界で800種以上、日本には約50種が生息し、すべての種が吸血寄生性で、主に哺乳類や鳥類、爬虫類などに寄生します。ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニが吸血の際に病原体を媒介することによって起こる感染症のことです。マダニ類による吸血は、成虫だけでなく、幼虫、若虫、成虫の各ステージで1回ずつ、生涯で3回行われます。いずれも病原体を媒介するリスクがあります。

ヒトの主なダニ媒介感染症は、急性重症熱性血小板減少症候群(以下SFTSと明記する)、ウイルス脳炎、日本紅斑熱、ライム病などが挙げられ、特に近年ではSFTSが問題となっています。SFTSは、ブニヤウイルス科フレボウイルス属のウイルスによって起こる疾病で、日本国内では2013年に初めて死亡例が報告され、2020年5月27日現在で、累計患者数517名(うち死亡例70例)が報告されています。SFTSの推定感染地は西日本に限定されていますが、患者発生報告のない地域に生息するマダニからもSFTS遺伝子が検出されたという報告もみられています。

マダニ類の採集は、旗ずり法(フラグging法)により行いました。旗ずり法とは、白色フランネル布(30×45cm)を長さ約1メートルの棒の一端に付け、地表の植生や落ち葉の上をこすり、マダニ類を採集する方法です(写真1)。

調査は円海山周辺部の市民の森と富岡総合公園の2地点で行いました。円海山周辺部では、2019年2月、6月、9月、12月の4回、富岡総合公園では、2019年5月、7月、10月の3回、調査を行いました。

採集したマダニ類はアルコールに浸漬後、成虫についてはそのまま、幼虫及び若虫については封入標本作成後、顕微鏡下で同定しました。

本稿では、これらの調査結果について報告します。なお、この調査は衛生研究所課題持込型研修により行われました。



写真1 旗ずり法(フラグging法)

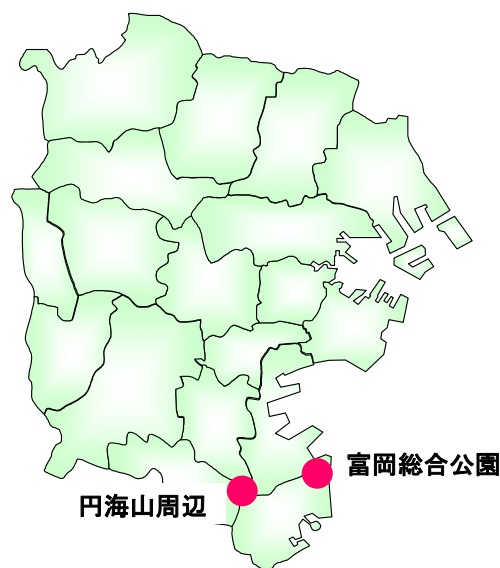


図1 マダニ類捕獲調査地点

調査地点別のマダニ類の捕獲数を表に示しました。

円海山周辺部において、キチマダニ*Haemaphysalis flava*、フタトゲチマダニ*H. longicornis*及びアカコッコマダニ*Ixodes turdus*の3種、363個体が採集されました。種構成はキチマダニが93.4%と最も多く、フタトゲチマダニ4.7%、アカコッコマダニ1.9%でした。

また富岡総合公園において、キチマダニ4個体が採集されました。

表 調査地点別のマダニ類捕獲数

調査地点 (回数)	円海山周辺部 (4)	富岡総合公園 (3)	合計
キチマダニ	339 (93.4%)	4 (100%)	343 (93.5%)
フタトゲチマダニ	17 (4.7%)	0	17 (4.6%)
アカコッコマダニ	7 (1.9%)	0	7 (1.9%)
	363	4	367 (100%)

円海山周辺部におけるキチマダニの捕獲状況を図2に、フタトゲチマダニとアカコッコマダニの捕獲状況を図3に示しました(調査回によって調査人数が異なるため、採集者一人当たりの調査結果に換算。調査人数:2月1人、6月8人、9月7人、12月4人)。

キチマダニの成虫は9月と12月に捕獲されましたが、捕獲数はごく少数でした。若虫は全調査回で捕獲されました。2月に最も多くの個体が捕獲され、幼虫は9月、12月に多くの個体が捕獲された一方、2月、6月には捕獲されませんでした(図2)。

調査を行ったのが四半期に1回のため、詳細な季節消長を観察することはできませんでした。

なお富岡総合公園のキチマダニの捕獲状況は、5月に成虫と若虫各1個体、7月に幼虫が2個体の計4個体でした。

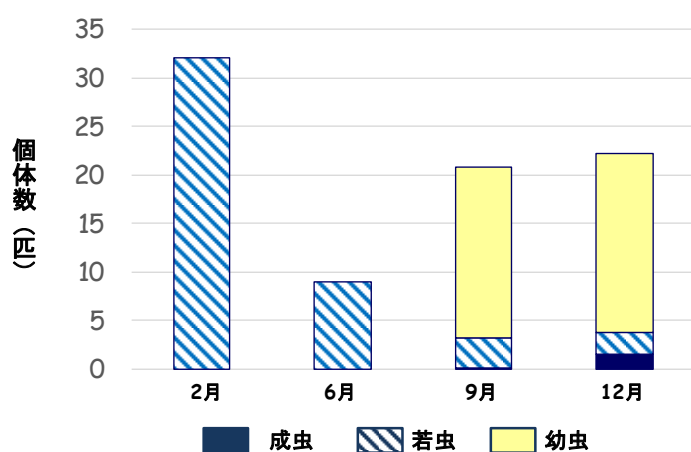


図2 円海山周辺部におけるキチマダニの捕獲状況 (採集者一人当たりに換算)

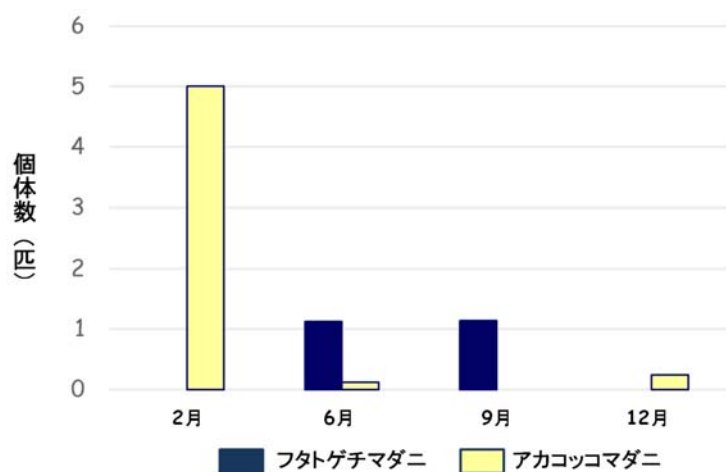


図3 円海山周辺部におけるフタトゲチマダニとアカコッコマダニの捕獲状況 (採集者一人当たりに換算)

フタトゲチマダニは中華人民共和国において、SFTSの主要媒介動物といわれています。今回の調査ではフタトゲチマダニは6月に若虫が、9月に幼虫が捕獲されました。成虫は捕獲されませんでした(図3)。

アカコッコマダニは2月に幼虫と若虫、6月に成虫、12月に幼虫が捕獲されました(図3)。

国内の野生哺乳動物調査で、SFTS抗体陽性動物は東日本でも確認されるようになっていきます。

今後も市内におけるマダニ類の調査を実施し、生息状況の監視を継続していく必要があります。



写真2 キチマダニ成虫

食品中の動物用医薬品検査結果(令和2年9月)

動物用医薬品は畜水産物の疾病の治療、予防および発育促進の目的で使用されています。食品中に残留する動物用医薬品が人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は動物用医薬品について残留基準を設定しています。

当所では、市内流通及びインターネット購入品の畜水産食品について検査を行っています。今回は、健康福祉局食品専門監視班が令和2年9月に収去及びインターネットで購入した食品の検査結果を報告します。牛の筋肉1検体、豚の筋肉1検体、羊の筋肉2検体、鶏の筋肉4検体、鴨の筋肉1検体、牛の脂肪1検体、豚の脂肪1検体の計11検体について検査を行いました。その結果、表に示すとおり全ての検査項目で不検出でした。

表 検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果								検出限界
	筋肉					脂肪			
	牛 (1検体)	豚 (1検体)	羊 (2検体)	鶏 (4検体)	鴨 (1検体)	牛 (1検体)	豚 (1検体)		
【合成抗菌剤】									
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
クロビドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファジメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファドキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファペリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
スルファモノメキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
トリメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	-	-	0.01	
【抗生物質】									
オキシテトラサイクリン、 クロルテトラサイクリン、 及びテトラサイクリンの和	-	-	-	N.D.	N.D.	-	-	0.02	

単位: ppm N.D.: 不検出 -: 実施せず

表 検査項目、検査結果及び検出限界(続き)

検査項目	検査結果							検出 限界
	筋肉					脂肪		
	牛 (1検体)	豚 (1検体)	羊 (2検体)	鶏 (4検体)	鴨 (1検体)	牛 (1検体)	豚 (1検体)	
【内寄生虫用剤】								
フルベンダゾール	-	-	-	N.D.	N.D.	-	-	0.002
イベルメクチン	-	-	-	-	-	N.D.	N.D.	0.005
エプリノメクチン	-	-	-	-	-	N.D.	N.D.	0.005
ドラメクチン	-	-	-	-	-	N.D.	N.D.	0.005
モキシデクチン	-	-	-	-	-	N.D.	N.D.	0.005

単位:ppm N.D.:不検出 -:実施せず

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告(令和2年10月)

《今月のトピックス》

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。
- 新型コロナウイルス感染症の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈10月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	31件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
E型肝炎	4件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
レジオネラ症	5件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レプトスピラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
アメーバ赤痢	4件	水痘(入院例に限る)	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	梅毒	14件

- 1 腸管出血性大腸菌感染症: O157が23件(うち無症状病原体保有者が6件)、O26が1件(無症状病原体保有者)、O111が1件(無症状病原体保有者)、O103が2件、O128が1件(無症状病原体保有者)、O血清群不明が3件(すべて無症状病原体保有者)の報告がありました。
- 2 E型肝炎: 4件の報告がありました(うち無症状病原体保有者が2件)。いずれも感染経路等不明です。
- 3 レジオネラ症: 肺炎型5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 4 レプトスピラ症: 1件の報告がありました。沖縄県での水系感染が推定されています。
- 5 アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が4件ありました。そのうち2件は性的接触による感染が推定されています。
- 6 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告がありました。いずれも感染経路等不明です。
- 7 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: B群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 8 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDS3件の報告がありました。いずれも男性で、そのうち2件は性的接触による感染が推定されています。
- 9 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- 10 侵襲性肺炎球菌感染症: 70歳代の報告が2件(いずれもワクチン接種歴不明)ありました。いずれも感染経路等不明です。
- 11 水痘(入院例に限る): 検査診断例の報告が4件ありました。いずれもワクチン接種歴不明です。
- 12 梅毒: 無症状病原体保有者1件、早期顕症梅毒Ⅰ期10件、早期顕症梅毒Ⅱ期3件の報告がありました。性別は男性11件、女性3件で、いずれも性的接触による感染が推定されています。

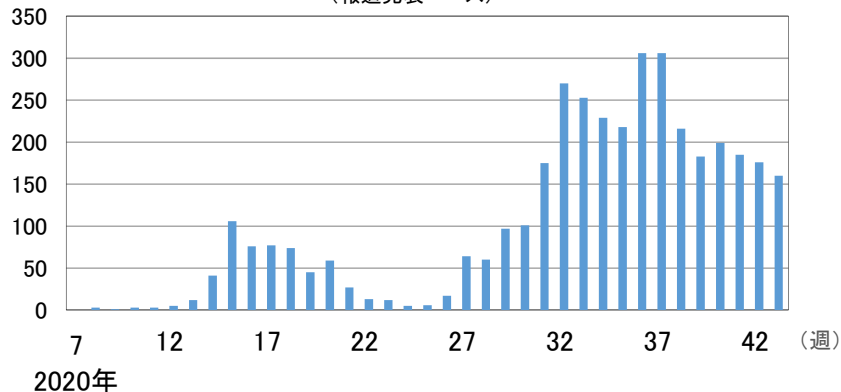
◇ 指定感染症(新型コロナウイルス感染症)(件)

第38週～第43週に横浜市から報道発表のありました症例は1119件でした。

横浜市内の新型コロナウイルスに感染した患者の発生状況

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/kanja.html>

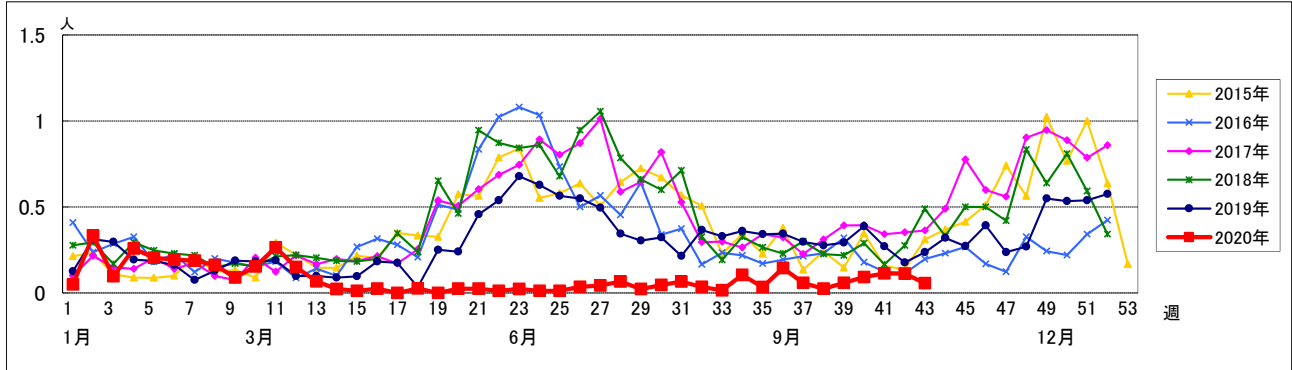
新型コロナウイルス感染症報告数
(報道発表ベース)



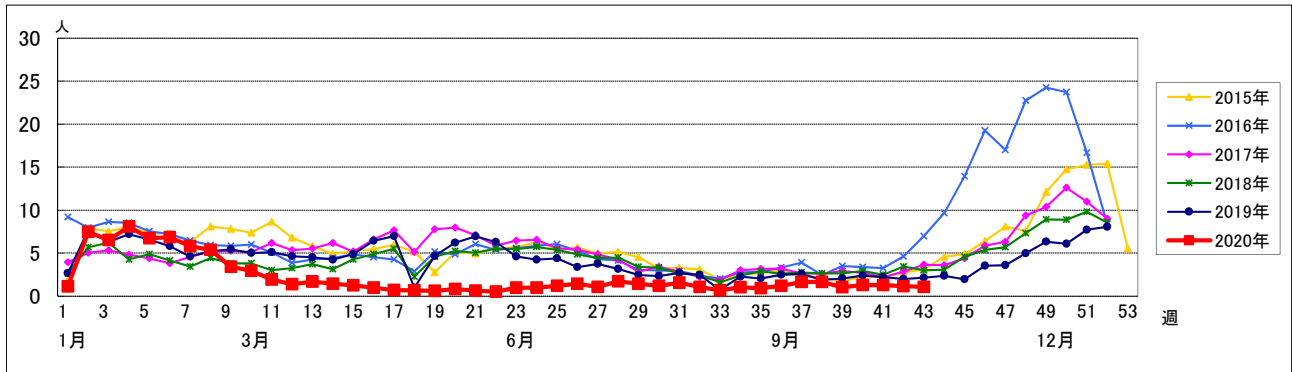
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第38週	9月14日～9月20日
第39週	9月21日～9月27日
第40週	9月28日～10月4日
第41週	10月5日～10月11日
第42週	10月12日～10月18日
第43週	10月19日～10月25日

1 咽頭結膜熱: 例年より低めの報告数で推移しています。第43週は0.06です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第43週は1.06です。



3 性感染症(9月)

性器クラミジア感染症	男性:20件	女性:19件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:2件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:2件	淋菌感染症	男性:15件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第38週	第39週	第40週	第41週	第42週	第43週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(9月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

10月期(第39週～第43週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点21件、内科定点2件、眼科定点3件、基幹定点からは4件でした。

11月6日現在、表に示したライノウイルスの遺伝子10例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果10月期(2020年第39週～第43週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	そ の 他
ライノ	7	2	1
合計	7	2	1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

10月期(2020年第39週～第43週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、非定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、過粘稠性クレブジエラ2件、非結核性抗酸菌(NTM)2件、レンサ球菌1件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌24件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、劇症型溶血性レンサ球菌2件、侵襲性インフルエンザ菌1件、カンピロバクター1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、保健所からボツリヌス毒素2件、レプトスピラ4件、レジオネラ2件の検査依頼がありました。小児科定点からは検査依頼はありませんでした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2020年第39週～第43週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等		
基幹定点	腸管出血性大腸菌	3	O157 : H7 VT1 VT2 (3)		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)		
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)		
	過粘稠性クレブジエラ	2	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (2)		
	非結核性抗酸菌	2	<i>Mycobacterium abscessus</i> (2)		
	レンサ球菌	1	<i>Streptococcus mitis</i> group (1)		
保健所	腸管出血性大腸菌	24	O157 : H7 VT1 VT2 (13)、O157 : H7 VT2 (4)、O157 VT1 VT2 (2)、O26:H11 VT1 (1)、O103 : H2 VT1 (1)、O111 VT1 VT2 (1)、O128 : H2 VT1 VT2 (1)、OUT:H7 VT2 (1)		
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (2)、 <i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1)		
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	<i>Streptococcus agalactiae</i> (2)		
	侵襲性インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> (1)		
	カンピロバクター	1	<i>Campylobacter jejuni</i> (1)		
	分離同定	材料	項目	検体数	同定、血清型等
	保健所	血清・便	ボツリヌス	2	ボツリヌス毒素陰性 (2)
尿・血清・全血		レプトスピラ	4	<i>Leptospira interrogans</i> (nested PCR) (2)、抗体価陰性・nested PCR 陰性 (2)	
喀痰		レジオネラ	2	<i>Legionella pneumophila</i> SG1 (2)	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報(令和2年10月)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、令和2年10月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。また、令和2年2月の集計より、新Webアクセス解析システム「Matomo」による集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和2年10月の総アクセス数は、353,213件でした。前月に比べ1.5%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター^{*1}89.0%、保健情報5.8%、食品衛生1.5%、検査情報月報1.1%、生活環境衛生0.7%、薬事0.5%でした。

^{*1} 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

10月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、2位は、「ぎょう虫(蟯虫)症について」、3位は、「インフルエンザワクチンについて」でした。流行期を前に、予防接種への関心が高まっていたようです。10位には、「リステリア症について」が入っています。

表1 令和2年10月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	横浜市感染症情報センタートップページ	218,429
2	ぎょう虫(蟯虫)症について	7,698
3	インフルエンザワクチンについて	5,422
4	トキソプラズマ症について	4,507
5	大麻(マリファナ)について	4,476
6	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,504
7	死亡率・致死率(致命率)・死亡割合について	3,006
8	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	2,922
9	EBウイルスと伝染性単核症について	2,754
10	リステリア症について	2,651

データ提供:市民局広報課

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「ぎょう虫(蟯虫)症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/ka/gyou1.html>

「インフルエンザワクチンについて」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/a/influvaccine.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和2年10月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 令和2年10月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
大麻(マリファナ)について	1

2 追加・更新記事

令和2年10月に追加・更新した主な記事は、2件でした(表3)。

表3 令和2年10月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
10月1日	熱中症情報(2020年10月1日)	掲載
10月15日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版第10回)	更新

【 感染症・疫学情報課 】